

報 道 発 表 資 料
平成 22 年 10 月 1 日
気 象 庁

平成 22 年度緊急地震速報講演会

「緊急地震速報！そのときどうする？いま何をする？」

の開催について

平成 19 年 10 月から一般提供を開始した緊急地震速報は、地震発生直後に地震の強い揺れが到達することをお知らせすることができる画期的な情報ですが、見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかなため、身の安全を確保するためには自ら素早く判断し行動することが必要です。また、有効に活用するためには、建物の耐震化や家具の固定等の耐震対策や行動訓練等、普段からの地震への備えも欠かせません。

地震対策をはじめとした防災対策は、普段の生活の中では、つつい疎かになりがちです。本講演会では、阪神淡路大震災の被災経験や、これまで実際に緊急地震速報が発表されたときの具体的な行動の分析結果等について話題を提供いただきます。大地震の様子や、そのときに人はどう行動するのかについて具体的にイメージしていただくことで、防災を自らの問題として捕らえ、さらに情報の活用方法についても具体的にお考えいただく機会となると思います。是非ともご参加ください。

講演会の場所や講師、申し込み方法など詳しくは、別紙をご覧ください。

本件に関する問い合わせ先： 気象庁地震火山部管理課

電話 03-3212-8341（内線 4505、4516）

平成 22 年度緊急地震速報講演会の概要

名称：平成 22 年度緊急地震速報講演会

「緊急地震速報！ そのときどうする？ いま何をする？」

主催：気象庁

共催：港区、緊急地震速報利用者協議会

後援：内閣府（防災担当）、総務省消防庁

日時：平成 22 年 11 月 21 日（日） 13 時 30 分～15 時 45 分

場所：赤坂区民センター

港区赤坂 4-18-13 赤坂コミュニティーぷらざ内

内容：

講演 1 『緊急地震速報』の利活用とその課題

講師：中森 広道（日本大学文理学部社会学科 教授）

これまでに発表された緊急地震速報の利用状況の分析を交え、緊急地震速報を使って地震から身を守るために、私たちが普段から行っておくべきこと、緊急地震速報を見聞きしたときに行うべきことについて解説。

講演 2 身を守るための情報の活かし方

講師：半井 小絵（気象キャスター）

自身が被災した阪神・淡路大震災での経験や、気象予報士として防災情報を伝える経験をもとに、緊急地震速報をはじめとした防災の大切さ、情報の活かし方を紹介。

講演 3 港区が進める防災対策と助成制度

講師：遠井 基樹（港区 防災課長）

港区の緊急地震速報装置購入助成制度の概要及び実施背景を説明するとともに、都心港区が進める防災対策に関連づけ、対策のあらましを紹介。

定員：400 名

参加費：無料

参加方法：事前予約(気象庁ホームページまたは往復はがき)

応募期間：平成 22 年 10 月 15 日(金)～11 月 15 日(月)

定員に達した場合、期日前でも応募を締め切ります。

※同日 11 時～17 時、上記会場ホワイエにおいて、緊急地震速報利用者協議会・(財)気象業務支援センター共催(気象庁後援)による「緊急地震速報関連機器等展示会」を開催します。この展示会では、緊急地震速報利用者協議会の会員による緊急地震速報提供サービスの紹介、緊急地震速報受信端末の展示・実演及び関連防災機器等の展示が行われます。あわせてご覧ください。事前予約の必要はありません。参加費無料。